

Title	酒造業における市場戦略の策定 - 多変量解析応用の試み
Sub Title	
Author	岡田俊輔(Okada, Toshisuke) 関谷章
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1979
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001979-0015

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No 7915

学生氏名 岡田俊輔

主査 関谷章 助教授

副査 鈴木貞彦 助教授

所属ゼミナール 関谷章 研

和田充夫 助教授

酒造業における市場戦略の策定 — 多変量解析応用の試み —

ここ数年、電子計算機利用の一般化に伴い、社会調査のデータ処理に対して多変量解析の手法が用いられる。しかしながら、その処理の前提は標本、もしくは母集団の構造・性格を記述することである。分析を意思決定の場において利用するためには制御可能な変数に注目して分析が行われなければならない。その事例として、地方酒造業のA社が調査会社に依頼した社会調査の例を用い、意思決定の場に利用可能な多変量解析の応用試例をつくる。調査会社の分析結果は意思決定の場においては実用不能だったが、その分析結果を検討し、再分析を行う。その分析は主に因子分析に依るが、2段階に行うことで変数を絞り込み、分析のワナである記述のための分析に陥らぬことを旨とする。分析は消費者の重要視するアルコール飲料、ウイスキー、A社製品、競合ブランドから因子の形で情報を抽出し、その情報を制御可能な変数と結びつけ制御可能な変数を探索する。結果的には因子の形として注目に値する。あるいは至極当然な情報が得られたが、制御変数の形に明示するのは難問であり、結局複数の制御変数の集まりの形で何とか示すこととなった。